

コラム

真宗門徒の礼装

りやく かた ぎぬ
略肩衣

肩衣は在家の仏教信徒が仏前に礼拝する時に用いる礼装です。江戸時代の礼装であった袴の上半身部分が簡略化されたものが肩衣であるといわれています。

現在は肩衣をさらに簡略化した略肩衣が一般的で、本山の相続講の賞典としておくられ、また帰敬式を受式された方へ授与されています。

各お寺で総代さん用にしつらえていたり、お寺の聞法会などで揃えていたりする場合があります。仏さまの前に座る時は、ぜひ着用するようにしましょう。



▲帰敬式受式の略肩衣

表紙イラスト「略肩衣」

…寺院での法要や仏前でお参りするときに着用する礼装。



今月の門徒さん

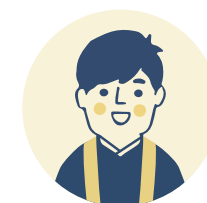
「私の気づき」

石川 正俊さん (大分東組 浄龍寺)

新年を迎えた我が家では、例年子や孫と一緒に勤めをすることが慣例でした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で帰省が難しく、一同に集うことができないことがあります。

改めて、これまでの普通の生活がどれだけ幸せなことであったか実感しました。

また、私は最近母を亡くしましたが、亡き母をご縁として願われている身であることに気づかされました。ご本尊を中心とした生活をしていきたいと思います。



お正月と一緒に勤めすることが難しくなっていることは寂しいですね。状況が落ち着いたらぜひ再開してほしいと思います。

1
月号

正月のお勤め

新たな年の始まりに

kyushu-kyoku

九州教区



発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会

〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056

正月のお勤め 修正会



修正会しじょうえ

お正月はお盆とならんで私たちの生活の大切な節目となっており、地域によって様々な行事や風習があります。寺院では新年に「修正会しじょうえ」という法要が勤められます。

「修正会」は正月に修される法会という意味で、古くから宗派を問わずお寺で行われている仏教行事（仏事）です。明治時代から始まったとき

れる神社などへの初詣も、お寺の修正会への参拝が一つの起源だと言われています。

真宗寺院における修正会は、何かを祈願するというものではなく、新年にあたりご本尊・阿弥陀如来に手を合わせ、あらためて仏さまの教えに聞き、これからの一年の歩みを仏法のもと確認する仏事です。

お内仏でお参りを

お正月には家族や親戚が集まることもあるでしょうし、初詣や初売りなど楽しいことも多いと思います。そのような中でも、真宗門徒として、皆でお内仏の前でご本尊に手を合わせることを大切にしたいものです。

それに向け、お内仏をきれいに掃除して、仏具を磨き、花を立て、打敷をかけ、鏡餅をお備えします。

新年の初めは「正信偈」を皆でお勤めしましょう。

私たちは神仏の前や大切な行事の際、当たり前にごく自然に手を合わせます。しかし、私たちがどういう思いで、何を祈っているのかは常に考えなければなりません。仏さまが教えてくださるのは、思いを叶えようと祈りながらも、その思いに振り回されている私たちの姿なのです。



あらためて教えに聞く

修正会では、親鸞聖人の数多くあるご和讃を、あらためて最初の「弥陀成仏のこのかたは」から読み始めます。新たな年を迎え、お念仏の教えに一からたずねていこうとする先人たちの姿が見て取れます。お正月にご本尊に手を合わせることは、自分の思いを叶えるためでなく、「あなたへの生き方はそれでいいのですか」と呼びかけてくださっている仏

さまに伝えて、教えに生きようと決意を新たにする意味があるのです。

真宗本廟（東本願寺）では毎年一月一日から七日まで修正会が勤められます。また各地の真宗寺院では除夜の鐘の後に勤められることも多いようです。大晦日の除夜の鐘を撞かれた後は、修正会にもご参拝ください。



▲真宗本廟（東本願寺）修正会の荘厳